小野乃小町
うき世源氏絵
三編上のまき

京山作

天保辰春
森治板

へ送13
2378
46(5)

鸚鵡小町

小野小まち
浮世源氏絵
三編上の巻

國貞画

森治板

へ送13
2378
46(6上)

へ遠13
2378
46(5)

遠
2378
46

小野小町浮世源氏絵

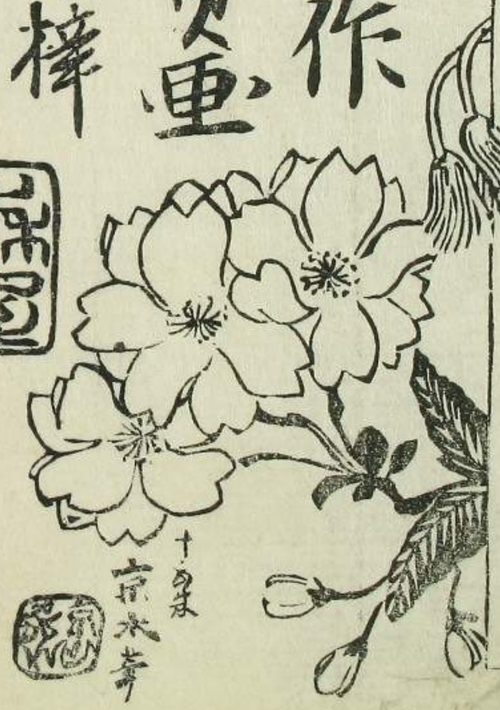
三編上の巻

山東庵京山作

大阪亭國貞画

錦森堂寿梓

天保三辰新鐫



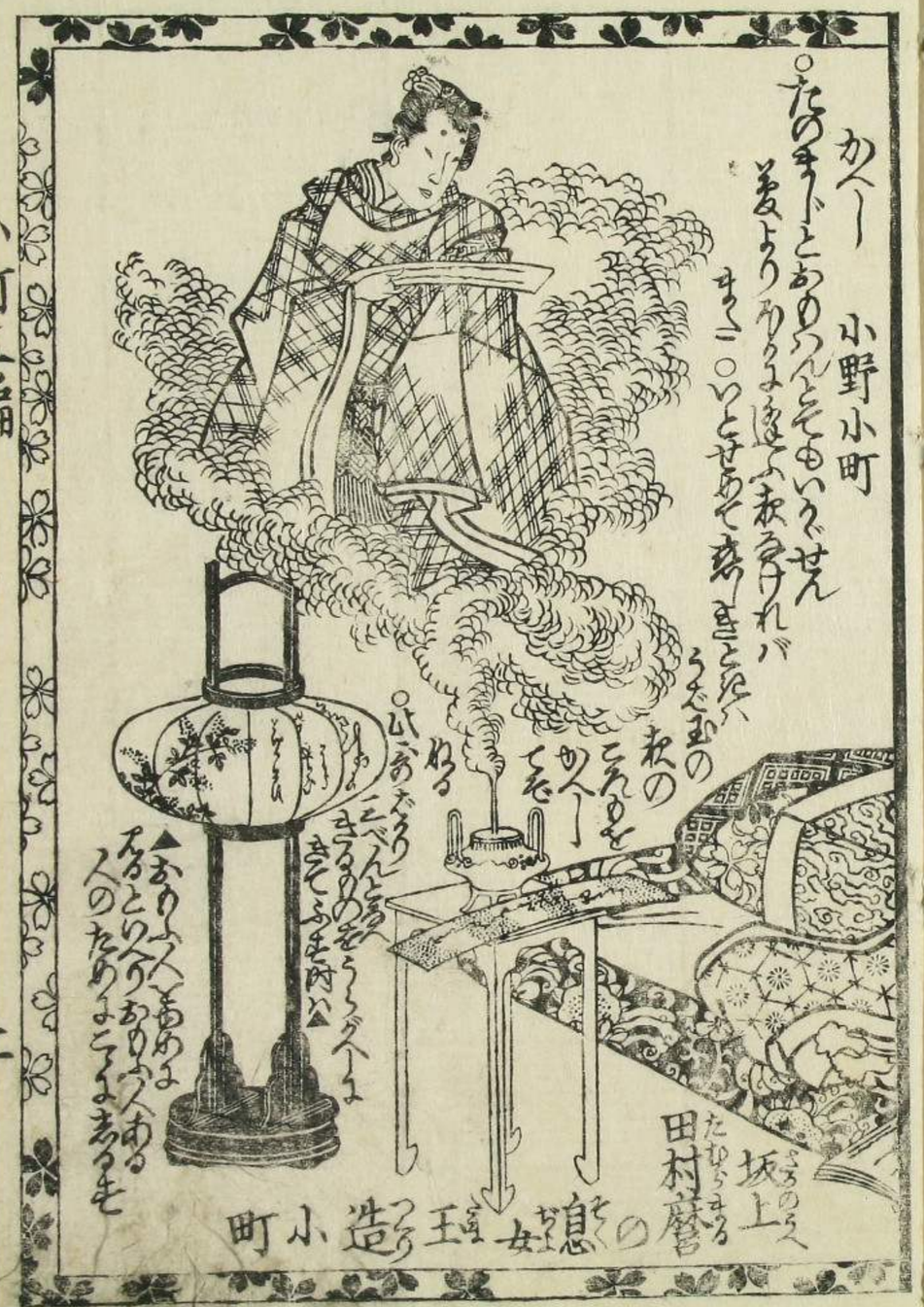
小野の小町が一代記しるす書どもあまたあまたど兼好が記ごとく本傳いさだらなく出羽の生れるゆへ拾芥抄また文數年在京していろこのみるゆへ袖中抄の説ゆへ小町ハ仁明の比を娘ざかりを歴てるよりあまたえられば千年のむかしよりあまたあまたの女の中まで今も小町と稱するの名ふいろをのこせし小町櫛その名をのその物語去年は彩作幸ひよ行まったれば小町が袖の二の舞をと書肆のもとめよ筆をとるしハ天保二年の弥生小町櫻の咲比なりけり

天保卯春脱稿
辰春新鐫

山東庵京山題

夢ゑ人の
たそそらば
小野小町

○思ひてぬれぬやゆめのたえてふん
夢とあやなもべさまざまとも
とれをゆめかうけれがあられ
ゆるゆるとあふれうへ
○うたゝ寝ゆめ人を
たそそらばたのまそあてふ

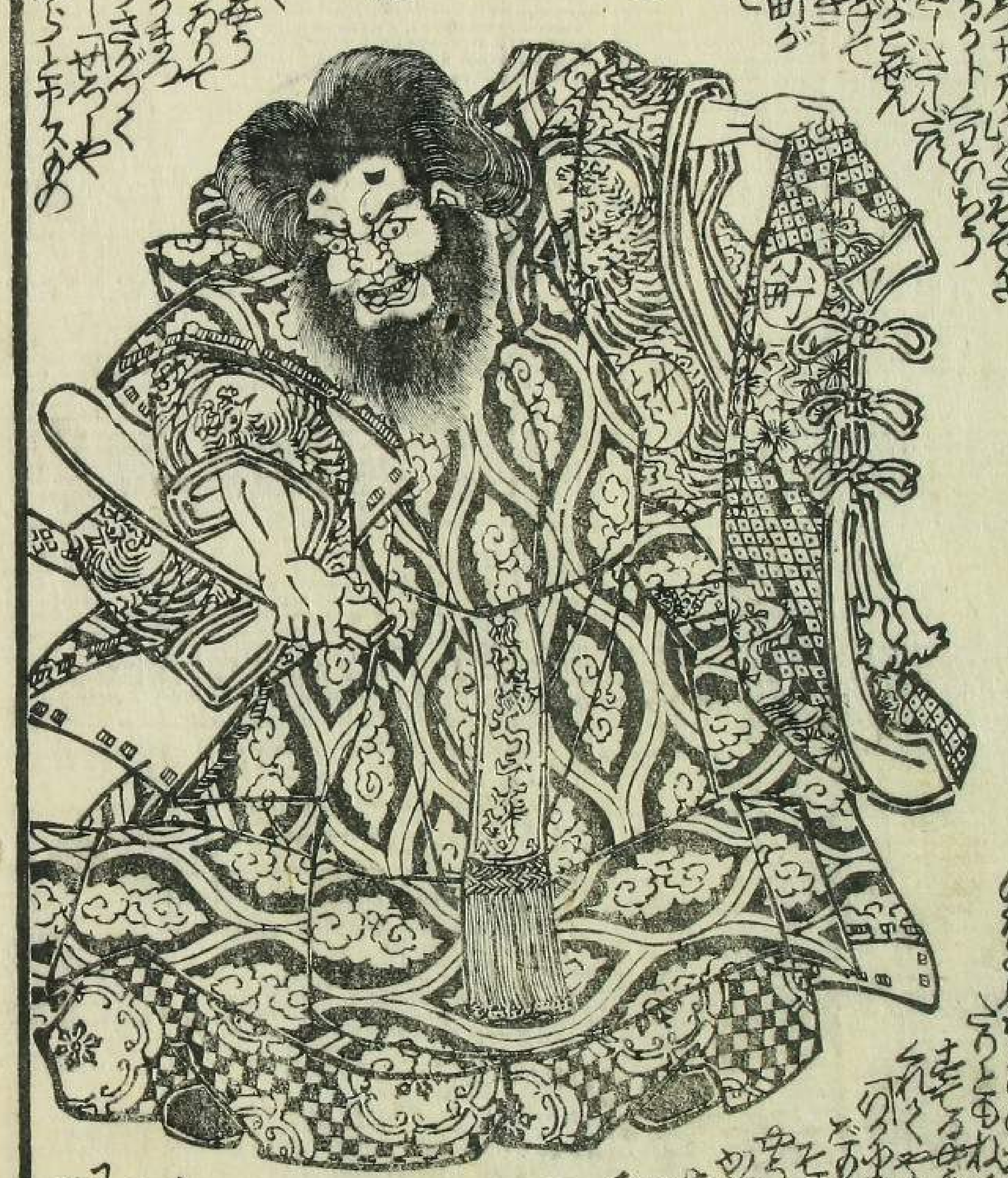


作者曰
角
三
四

角

角
矢

[illegible]



㈡ [illegible]

[illegible] ㈠

[illegible]

(二)ひとまのうちへ入るよりはやくぶんぶんうるさいあんばいをきゝむしのそこらをとぶやうなせわしさ五大三郎

(三)あけがたのしらこ三郎

(四)せがれが
やうすをのぞいて
うけをうんとうなづきあうてあれが小町かあらでもあるまいあれ男のこゝの五分さうやうさまもうつぬけさう

堺政

三ばんめ
いろはト一つうを
ふところへねちこんで
うさねてあつうトふれつら
かくうつくしてまちさうけり

▼うちあどうに「小町がくるとあるひとの
かうゆもおつぬ男のそばにぬけ
たをを目くらみするあよめの
あけのさきへまるごかれのこひを
むすめのすがたとうとうとうとう
かるるるるのづるふざいこうやきそも
ちぐくろ「ばんばいかんまりが
どぎるさうこのさるのとりやとれたう
角内とせがれがめへ一ぁん
ざんりのこれを小まちがるがら
ト「たりるきがめがこうさうす
ト一つうこのこの「それみて
こてとあきてあれ○二ッ
かうてこそさうつてふまちはあを
うそひとりのたてるこびとて
代ちえんこのこりさそちまこう
百石あてかとうそこのもうこう
るきそ又ちめ「かめもて」こてく大内へ
ちのこびとりつのがうのんこ
とりのこあのてふちゆしくろとう
ありくあせうあるるにのこう
角内へぬけつら「それとあきてるき
れうこのすこつあがはうたト町と
ヤスきうめのこうたー又ト町が
ひでるのとりくびはきろうこを大内の
目きて「ふだ」ませうス「サそれへ
「サうく「小町がこびへはきろうこをそて
たうこうけとりめくれ「ふめくふ」㊀

へ送13
2378
46(61上)

2378
46

小町之編

京山作

下巻

國貞畫

森治寿梓

十五歳 京水

三の巻のうらと取け
のらく死と取け
たかやそむりしのせく人を
たづねれバ人目ようらぬ
山づくりのあをがりの入
そのうちのんうさぐくともそめ
けれバ目にようにまでも
ふうきめぐみをそうけるが 次へ▲

▲今ハまアぐくそのむねを身どもがやく人
くま田村丸どのへもそうだん申
身のおこなひをもちかへんそのおかさけの
られけれどもおのれの山よりぬうくぬうくとぞが
人どのせうとひうとうそその
名けハこれのあさるをひ
大弁おまへ死人よ口
なくのひうけたまは
まてそれ矢さ死よねとあ
たつその山があつまぎ
でおつくうのけどもぬ
とをぞんねんく
るはるもいも身の
りんぐきとおきくる
めそつとらんぐくさへ
くきをうらバをぞとと
人めはの人をつせ
母への子ろきをやまをめ
ぜあてハれあんをかうドたし
身そうくれらへくのりゆを
しくみらのくへくだうまるの
おくみめぐりあひをこのたつと
いのぞるのくとめきうをもう会た
ぞのやらくのもあるけるきこの
身のそてトよりをそうそまる
わそしやうをたよりきのいとであへ
まてよあかひきのひるなる 一

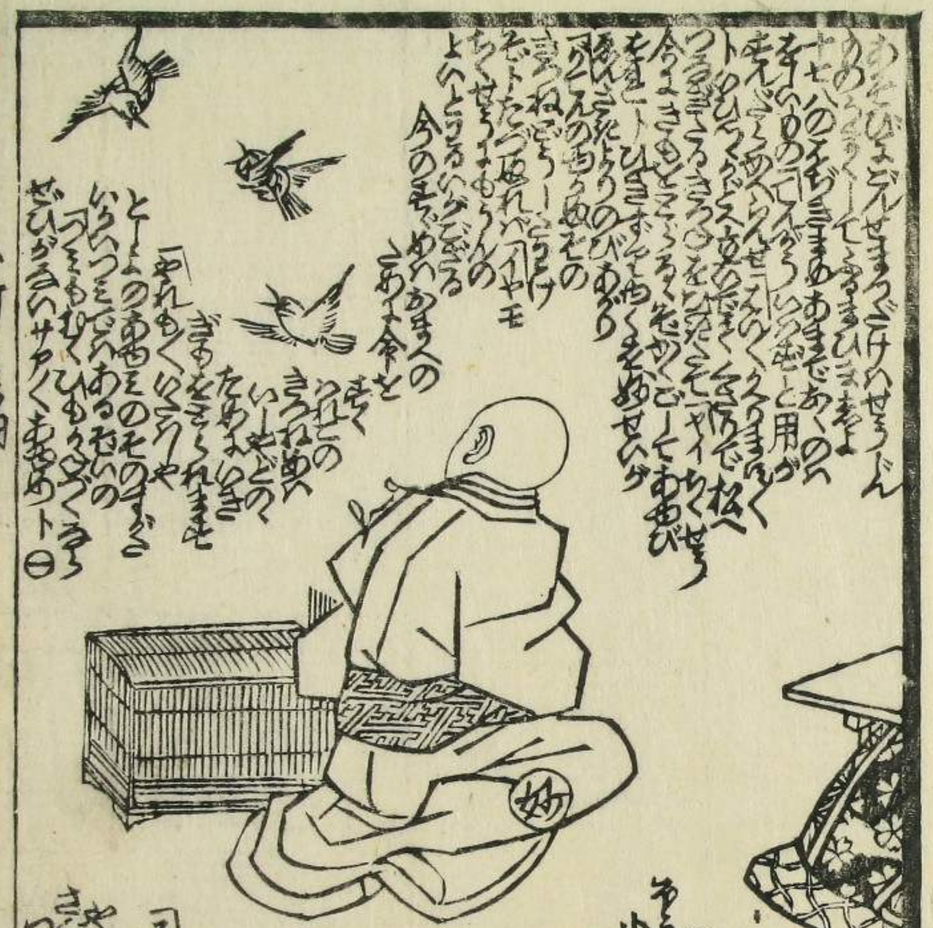
二 それがうおくま
つとめしてぞ
づひふさおやま
これしのち
てつちうしく
妙せいと右の
きうのくおくみ
まきゃひが
みちのくま
かくおわりて
おかくへみ
うのちへ
くでる
とのまり
その身ぞ
やきさべ
よき
こころ
づれ 三

四 そびの
用いハそれ
ぐーょうわろ
ろひゃさん
四のすきへ

これもぜんせのあくゑんト
ふかみごころにてをむすび
あけくるまでかたりも
ひとつのあまた梅の木の花を
をりそへてつまびらかにつまりかをを
さげこのところへきたりしが
小町をみてふしんげにより
アタようヤアめうなところでよ
うげのきたるくろき
たのミこれくとのさまで
ござりますくろんのめいびん
とのあさくしんへ見とも
これるハ田村のむすめ玉つくり
の小町ひめさまにてあらう
わうすしそのゑんこそ
おそれ小町さま
小町よりきてゆくみちへ
ともわれ小町ひめをみちのくへ
とも言ひ出すトたのミなれバ
あんくいひおもハんぐあ紀
あすくらバうらへともしらく
たびのしるぎもそのひとかく
みちのくへおとらんト
きいく小町もおそれおあひ
よりてようびへぎよぎひ
こうげなばへいげれいを
よびよせめせへやうせあひ

きたりしたよりくやうにく
ひとつのおうにのかごをを
さげみちのけへござの人
まそもとろうけくるよし
ござふうきたるごけも
小まちひわのおやさぐさ
みとこのおのおやとの
よいかうそのせまれまれ
くりにてよれあんる
つすれまうニミドあるべき
ぞらまつられいりやる
よそのえんをいへ言みぢり
のへくぎりの白菊おりて
やくたよう〳〵ときどきうら
むすめとうまれ小町の小町と
のちの世まではそのとぜく
このとゑのゑんとこそ
あらをとけれ
○さがほのかくのおまでらま
ちやをそえ氣しめせへが
ふづらゑまらあすみの水
さでが花のおやまでるさ
めぞのいうをざまやらま
のころすぐこのさきしくも
むすをあひてのすまぞその
そハ見ゆるとごらんあれなり
あらそうてハるるそのおなさき
与作といへるつぎへ

小町


妙

京山作
國貞画